

十、一九九八年(平成十年)の活動

学童集団疎開記念碑の建立準備に取り掛かる

新年になって早速「記念碑建立」の準備に取り掛かった。一月九日にまず沖縄県から学童疎開生を受け入れ、先に記念碑を建立している、坪谷小学校、北郷村役場、日之影小学校、宮水小学校、高千穂役場に、電話連絡をして視察のお願いをし、FAXで視察日を二十七日にお願いしたところ了解の返事をいただいた。そこで一月二十七日には、坪谷小学校、北郷村役場、日之影小学校、宮水小学校、高千穂役場の学童集団疎開記念碑の視察をした。

それぞれの記念碑には、当時の学校生活、日常の苦労したことが書き込まれていて参考になった。

二月から三月にかけて当時の疎開生と同窓生の第二富高国民学校(現塩見小学校)、平岩国民学校(現平岩小学校)の会員がそれぞれ集会を開き、会員拡大に活発に動き出した。四月六日には甲斐事務局長が、浦添市の當山会長、銘荊副会長、新城事務局長に日向市の活動状況を報告する。

●浦添市訪問し再会、交流を深める

四月八日に「第四回日向交流会の役員会」を開催し、さらに活動



各地の疎開記念碑を見学する調査団

を進めることにした。

- ① 五月に浦添市を訪問する
- ② に会員拡大をすすめる

四月には会員が約二〇〇名になった

四月から五月にかけて浦添市訪問への準備、親富祖永吉先生、石川盛栄先生、當山全弘会長外三役と電話協議して訪問時における日程などをお願いした。日向交流会の浦添市訪問の参加者は三十九名になり再会に期待した。五月二十八日には、赤木市長、教育長に浦添市訪問について挨拶し、これからのことを要請した。

●待ちに待った浦添市訪問へ

いよいよ五月二十九日には、日向を八時三十七分に出発して、宮崎空港を経由して那覇空港に十二時十分に到着した。この日は沖縄戦の激戦地、糸満市方面の戦跡を見て回った。平和記念公園の多数の犠牲者の名盤などをみて戦



日向から浦添を訪問、交流を再会し、記念碑の建立を決定

争は絶対してはならないと改めて痛感した。二日目の三十日は、中部方面の海洋博公園など見学した。その夜は待ちに待った疎開生との再会である。懇親会の前に、双方の三役の懇談会を開催し

- ① 学童集団疎開記念碑を建立する。

- ② に姉妹都市締結なども検討する。などを確認した。

そして懇親会の始まりである。会場入り口は、一九四六年(昭和二

十一年)九月に分かれて、すでに最近会っていたことのある人と、五十二年ぶりに会う人の顔、双方とも戸惑いの顔が入り混じった瞬間だった。

懇親会には疎開生の當山会長はじめ四十四名の方が参加された。ひさぶりの再会である。当時は小学生でしたので、下級生ほどお互いの名前と顔を思いだすのに時間がかかったが、上級生はそれが早かったようだ。皆、同級生と当時、戦争中の思い出話弾んでいた。中には涙しながら話していた同級生もいた。自分は記録のためにもつばら写真を撮りながら先輩たちの姿を見て回った。



それでも自分は初等科一年生の一人の同級生、比嘉勇夫くんに会えるのを楽しみにしていたが、来てなかったので会えなかった。彼のことは一九九五年(平成七年)に石川盛栄先生に問い合わせさせていただいたことがある。当時は、疎開生は初等科三年生以上だったが、彼は、お姉さんの比嘉富士子さん(初等科六年生)と一緒にだった。彼が平岩に来たときの様子は、あの寒い学校の隅で寒さに堪えていた姿しか思い出せない。初等科一年生ながらも何もしてあげられなかったことが今になっても悔しい。

懇親会で会えて嬉しかったのが、一班の新城啓重事務局長(初等

科三年生)の弟、初等科一年生の新城廣昭さんと話をする事ができた。疎開生の初等科一年生は二人だけだった。新城さん姉兄弟三人が浦添に帰られ、壊れた浦添国民学校で親の来るのを待ったことからの話を以前聞いたことがある。また、重ねて「私の疎開体験記」をパソコンに打ち込みながら読んだときは涙しながらだった。當山会長はじめ、疎開生の皆さんは、同じような体験をさていたことは聞いていた。

そして、この懇親会は大いに盛り上がり別れがつかかった。六月三日には浦添市訪問意義と記念碑建立の願いがあることについて市長、教育長に報告した。

●両交流会の記念碑の建立の準備開始

その後、日向交流会は役員会で記念碑の計画を進め七月十六日に日向市役所総務課、教育委員会に資料を届け協議した。浦添交流会も浦添市役所と協議を進めた。

さらに両交流会は、両市役所による電話協議を進めるべき要請をお願いした。

九月十六日に日向交流会は、日向市議会の協力もお願いすべく「日向市・浦添市交流促進陳情書」を提出し、二十二日に総務常任委員会採択、二十五日に本会議で採択された。

十一月には赤木日向市長から浦添市長に親書を届けることになった。

さらに、日向交流会と日向市役所と協議を重ねるうちに、市役所敷地内の「記念碑建立」は、平成十三年度の日向市市政施行五十年記念事業とすることになった。

しかし、交流会の独自の「記念碑建立」は平成十二年度に建立す

日向市長
赤木 欣康 様

沖縄県浦添市からの学童集団疎開に関する陳情書

痛ましい犠牲を残した太平洋戦争が終わって、早や53年になりました。この悲惨な史実を私たちは未来永劫に忘れることはできません。思い起こせば昭和19年7月沖縄戦は日増しに激しくなり、戦況は風雲急を告げるようになりました。この最悪の中で国は、肉親の情愛断ちがたい親と子を離別させるという強制学童集団疎開を実施したのであります。

私たちの日向市にも、当時浦添国民学校から第1富高国民学校（富高小）に50名、第2富高国民学校（堀見小）に50名、平岩国民学校（平岩）に30名、あわせて130名が疎開してこられたのであります。

それらの皆さんは、平成7年、戦後50年を迎えたことを契機に『宮崎学童疎開地訪問団』を結成され、同年11月当時浦添市選会の副議長当山全弘氏を団長とする一行が日向市を訪問されました。また、平成8年8月には浦添中学生23名が日向市を訪問され、さらに平成8年11月には日向市議会の議員6名の方が浦添市を訪問されました。これをきっかけに日向市では浦添市との交流を一層深めるため、平成9年8月に『学童集団疎開沖縄県浦添・日向交流会』を結成し本年5月にこの日向交流会の39名の皆さんが浦添市を訪問致しました。その際には日向市長から浦添市の方々にメッセージも託されました。

現地浦添市では、すでに結成されている『学童集団疎開浦添・日向交流実行委員会』の44名の皆さんと一堂に会し有意義な交流の場がもたれました。話題はもっぱら悲惨な戦争を再び繰り返してはならないことと、世界の恒久平和を守ることの大切さでありました。

- そして最後に次の事を申し合わせいたしました。
1. 学童集団疎開の史実を後世に語り継ぐための記念碑を建立すること。
 2. 両市の人的、物的交流を深めるため姉妹都市締結に努めること。
- そこで、このことを実現するためには、市ご当局の特段の御配慮が必要かと思われまします。私たちの願いを叶えていただきますよう、ここに陳情申し上げます。

平成 10年 9月 8日
学童集団疎開沖縄県浦添・日向交流会
会長 甲斐千徳

浦添市長
宮城 健一 殿

1999年7月吉日

学童集団疎開、旭市日向交流会
実行委員会
会長 当山全弘

要 請 書

隆宮 陛下の教、貴族におかれましては益々ご清康のこととお喜び申し上げます。

1944年7月 政府は、緊急勅諭により学童疎開を決定した。急に学童疎開への設備活動が始められ、疎開国民学校も疎開することになった。

引率教員3名と世話係及び学童136名が九州へ疎開するために1944年8月27日徳島に集結した。8月28日乗船行旅。8月29日温床発着、8月30日〜8月31日航海、9月1日鹿児島上陸、9月1日〜9月7日鹿児島宿泊。9月8日 第1班50名、第2班50名、第3班30名と組み分けされ、平高・富高の目的地に向かう。それぞれの学童は、第一富高国民学校、第二富高国民学校及び平岩国民学校に納入された。戦争を挟んで約2ヶ年経過後は終はけられた。

戦後、沖縄は米軍の戦後統治（1945年4月20日）におかれたが、1972年5月15日沖縄県は祖国に復帰した。

その間交流の途は断たれ、1995年3月には沖縄戦終結50周年と位置づけし、市長のメッセージを掲げて日向市を訪問しました。又、1996年6月には浦添市中学生平和交流団が日向市を訪問し、同年11月には、日向市議会議員が浦添市を訪問するなど、交流の途はますます広がっています。1997年9月には、学童疎開の史実と恒久平和を後世に引き継ぐため、学童疎開記念碑の建立の話しが持ち上がりました。そこで、学童疎開の途で交差し記念碑を建立する1冊で双方（浦添・日向）で実行委員会を結成しその目的達成のために、鋭意取り組んでおります。当時は物資が豊富でなく余裕は決してありませんでしたが、そうした中、疎開に至るまで苦楽を分かち合い、疎開としていただいたことを思うにつけ感銘を新たにし、またそのことばかりでなくこのたび企画されている記念碑の建立については、大きな歴史を持つものと存じます。

つきましては、その主旨をご理解の上、事断の推進などについては特別のご支援、ご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

尚、別紙のとおりお考え資料を添付します。



當山浦添交流会会長が宮城市長に陳情書提出



陳情する當山会長、銘苅副会長、石川副会長、新城事務局長

甲斐日向交流会長が赤木市長に陳情する
永野顧問、山本顧問、甲斐顧問、壺岐顧問、黒木副会長、
児玉副会長、松木副会長、児玉副会長、黒木副会長
黒木副会長、松葉副会長、小林副会長、甲斐事務局長
平山次長

ることも検討したが、行政と同年度とすることにした。日向市役所は、浦添市役所と早めの協議で詰めて具体化したい考えである。

十一、一九九九年（平成十一年）の活動

新年の活動は四月に統一地方選挙も実施されたので一時中断。六月になり両事務局長は、両行政の協議を進めるために電話協議する。ようやく八月十六日に両行政が協議することになった。日向市役所は、浦添市役所の返事待ちとなり、十一月一日に再協議して進めることになった。

この時期に問題になったのが、細島に疎開した東風平国民学校で早速、日向・浦添交流会はそのことを協議した。日向交流会は、細島、美々津の関係された方々に記念碑建立について相談した

しかし、美々津に疎開した南風原国民学校、細島に疎開した東風平国民学校の関係者に相談したが進まなかったため、浦添国民学校疎開だけの記念碑建立とした。

十一月十九日には、第八回の役員会を開催し、記念碑建立の具体的なことを決定するため協議した。市役所の庭に一基建立するかどうかを詰めていく。費用は約二百万円が必要だろう。建立日は二〇〇一年（平成十三年）の市制五十周年の記念事業とする方向になる。

十二、二〇〇〇年（平成十二年）の活動

日向交流会は、浦添交流会と電話協議を進め、行政を後押ししながら準備を進める。三月には市長選挙も実施されるので中断した。三月十九日には山本孫春氏が新市長となる。早速、山本市長に会

って経過を報告した。山本市長は疎開生が富高第二（塩見）国民学校に来た時には六年生で共に体験されているので理解はされている人だった。

この時期、日向交流会から「四者協議」を開催することも提案したが、行政双方で協議したいとの考えであった。

両交流会で電話連絡する中で、八月一日に親富祖先生が入院された連絡があり、お見舞いを届けた。そして、浦添市役所が日向市を訪問することが知らされ、具体的な話し合いを期待した。

十月五日に両行政の協議があり記念碑建立が進むことになった。この頃に記念碑の除幕式典が平成十三年十月三十日に開催することが決まった。

これと並行して十一月十六日には、日向市教育委員会の宮副教育長から、中学生の浦添市訪問の提案があり、感動した。それから中学生の交流は現在も実施されている。また、日向市議会でも、記念碑建立の件、中学生の交流促進のための一般質問も行われた。

そして、十二月には、記念碑建立場所は、市役所に一基、塩見小学校に一基、平岩小学校に一基の案を検討することになった。建立費用をどのようにするかが課題になる。

十三、二〇〇一年（平成十三年）の活動

いよいよ、記念碑建立の年を迎えた。日向交流会は早速、第三回の総会を一月二十日に開催し、会員の拡大と、寄付金を集金することに全力を尽くすことになる。これまでに寄付金も多数の方から寄せていただいている。

さらに、一月三十日には、第十一回の役員会を開き、寄付金の件、浦添市訪問の件、を確認した。

平成13年2月吉日

学童集団疎開沖繩縣浦添・日向交流会
会員の皆さんへ

学童集団疎開沖繩縣浦添・日向交流会
会長 甲斐千穂
副会長 黒木重義

学童集団疎開記念碑建立の寄付金のお願い

初春の候、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、私たち日向交流会の、第一の念願でありました記念碑の建立も日向市、浦添市、向行政のご協力と、日向交流会と浦添実行委員会の寄付金によりまして今年10月頃に完成する運びとなりました。

ここで改めて振り返って見ますとこの20世紀の前半の日本は、二度とあってはならない戦争の時代でした。日中戦争、太平洋戦争と続く中で多くの人達が犠牲になられました。この痛ましい犠牲を償った太平洋戦争が終って、早くも58年が過ぎました。この戦争において昭和19年7月沖縄戦は、日増しに激しくなり戦況は風雲急を告げることになりました。この最悪の状況の中で国は、内戦の情勢漸次がたい親と子を離別させるという学童集団疎開を実施したのでした。

昭和19年9月8日に第一富国民学校(50名)、第二富国民学校(垣見小学校 50名)平岩国民学校(30名)に疎開して来られました。私たち会員は、当時国民学校の生徒でしたが浦添の生徒さんたちの生活を思い起こすと心が痛みます。また、終戦後昭和21年9月25日に富高駅、岩瀬駅を出発して樹立と化した古郷浦添に着いたときの悲しみを思うとき、この悲惨な史実を私たちは未来永劫に忘れてはならないと思います。そして、この史実を後世に語り継ぐため記念碑建立を完成しなければなりません。そこで記念碑建立の寄付金につきましては、出費の多いなかばに恐縮でございますが趣旨をご理解いただきましてご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、さきほどご案内いたしました1月20日の総会におきまして、これからの取り組みを協議した結果下記のようになりましたのでお知らせいたします。そこで記念碑建立の寄付金につきましては、出費の多いなかばに恐縮でございますが趣旨をご理解いただきましてご協力の程よろしくお願い申し上げます。

1. 記念碑は、日向市役所に建立するよう行政にお願いしております。
2. 垣見小学校と平岩小学校にも小規模の記念碑建立を行政にお願いしております。
3. 日向交流会会員の寄付金は、一人3,000円を目安とします。
4. 寄付金は解明として、同年度の役員が集金します。
5. 市外会員の寄付金は、現金書留とします。いずれも納期は3月末日とします。送る先は 日向市大字財光寺6527-40 事務局長 甲斐誠二(0982-54-2858) 日向市大字垣見4081 事務局長 平山直通(0982-53-9399)
6. 寄付金の会計は、平成13年度特別会計とします。

会計の運営は、日向市役所と日向交流会でつくる実行委員会会計に予定です。
市内で集金された
領収書 役員名 印

疎開生と日向の同窓生会員に寄付金のお願い

そして、二月一日の行政と交流会との協議で記念碑建立の具体的な方法が決まった。市役所に建立する一基は、両行政の負担、塩見小学校と平岩小学校の記念碑は、両交流会で建立することになった。そこで記念碑建立方法も決まったし、浦添交流会と協議を兼ねて二回目の訪問をすることになった。訪問は二月二十四日から二十六日の二泊三日である。今度は御互いに知り顔なので、すぐに打ち解けた交流会になった。浦添交流会も寄付金を募ることが報告された。また、浦添市役所にも訪問し、記念碑建立が実現するようになった。お礼に挨拶に行った。

四月十日には第十二回目の役員会を開き、記念碑を両交流会で塩見小、平岩小に建立することを確認し、四月二十八日に会員と相談するため、塩見会と平岩会を開催し了解を得た。そこで寄付金については、各学年代表役員が個別にお願いして寄付金を募ることも確

認した。その後、役員が賢明な頑張りによって多くの会員から寄付金が寄せられたのにはびっくりした。そして五月、六月には校内の土地を利用するため、教育委員会、校長との協議で許可をいただいた。次は、市役所に建立する表碑文と裏経過碑文については、交流会の思いを参考にしながら両行政が調整することになった。塩見小、平岩小に建立する表碑文と経過碑文、役員名板は、両交流会の三役でFAXしながら作成することになり、両交流会の事務局長で調整をした。

六月末から記念碑建立の式典の準備に取り掛かった。行政との調整、浦添交流会との電話協議も慌ただしくなった。行政との調

平成13年5月23日

日向市教育長 宮 正 克 様
塩見小学校校長 黒 木 香 子 様
平岩小学校校長 寺 崎 之 三 様

学童集団疎開沖繩縣浦添・日向交流会
会長 甲斐千穂
副会長 黒木重義

垣見小学校と平岩小学校に学童集団疎開記念碑建立の場所について(お願い)

新緑の候、貴職におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃よりわたしたち学童集団疎開沖繩縣浦添・日向交流会の活動にご理解、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、振り返って見ますとこの20世紀の前半の日本は、二度とあってはならない戦争の時代でした。日中戦争、太平洋戦争と続くなかで多くの人達が犠牲になられました。この痛ましい犠牲を償った太平洋戦争が終って、早くも58年になろうとしております。この戦争において昭和19年7月沖縄戦は、日増しに激しくなり戦況は風雲急を告げることになりました。この最悪の状況の中で国は、内戦の情勢漸次がたい親と子を離別させるという学童集団疎開を実施したのでした。

昭和19年9月8日に那覇港を出航、9月1日鹿兒島港に着き、9月8日に浦添国民学校の初等科1年生から高等科2年生の学童が第一富国民学校(一翼50名)、第二富国民学校(二翼50名)、平岩国民学校(三翼30名)に疎開して来られました。9月9日に配属校で対面式がありました。私たち日向交流会の会員も同学年でしたので共に学校生活をしましたが、浦添の学童の皆さんは慣れない生活、そして古郷の父母を思い、初めて知った冬の寒さに慣えながら過ごされたことを思うと、私たちは心が痛みます。

昭和20年4月1日には沖縄に米軍が上陸し樹立と化したことも伝わってきました。そして、8月15日の終戦となりましたが、すぐ二回の台風によって食べものがなくなりましたので皆さんは農作業をしたり、農家の手取りをして苦しい生活をされました。このような生活を約二年間経たれて昭和21年9月25日に富高駅、岩瀬駅を出発し10月5日那覇港に到着されました。学童疎開の皆さんが樹立と化した古郷浦添に着き親兄弟をなくした悲しみを思うとき、私たちはこの悲惨な史実を未来永劫に忘れてはならないし、子々孫々まで語り継がなければならないと思います。

そこで、日向交流会と浦添市役所は日向・浦添両市役所へお願いしまして、日向市制施行50周年事業にあわせ市役所に記念碑を建立して頂くことになりました。私たち日向交流会と浦添市役所は、独自に疎開現場であります塩見小学校と平岩小学校にお願いいたしまして記念碑の建立を計画しているところでございます。どうかこの趣旨をご理解いただきまして建立場所のご協力をお願い申し上げます。

教育長、塩見小校長、平岩小校長に記念碑建立地の陳情

● 記念碑の原石探し

それに記念碑二基分の原石も見つけなければならない。七月七日に第十三回目の役員会を開いた。それを受けて役員は嵯峨庭石店に原石を見に行った。大きいのが二基あり、二校どちらにするかは、甲斐会長(平岩)、黒木副会長(塩見)が話し合い円満に決定した。

● 記念碑の工事開始

七月十日にはその原石を購入することになった。価格は二基で三十五万円に運搬費五万円にかけて、合計四十万円に話がまとまった。八月三日に、二基を高瀬、若田石材店に見積りを依頼した。

八月十一日には第十四回目の役員会を開いて記念碑の施工工事の件、除幕式典の件、詰め協議をした。十八日には浦添交流会から、寄付金四十二万円が届いた。そして、表碑文、裏経過碑文も両交流会事務局長との協議で決まった。表碑文の「学童集団疎開記念之碑」の書は、当時、平岩国民学校(六年生)の師範児玉賢氏の達筆である。

そこで記念碑の工事を急がなくてはならない。そこに八月三十日に見積書が届き、一基九十五万円×二基で百九十万円であった。翌日、すぐに役員を招集して石材店と協議した結果、一基九十万円×二基で百八十万円と決まった。後は石材店に早急に記念碑を建立する様に依頼した。

● 式典への準備

九月十二日には寄付された会員への除幕式典などの案内状を送

付した。日時が迫る中、行政との打ち合わせ、浦添交流会との電話協議、両校長との協議と遽しい中、十月二日に第十五回目の役員会を開催し、役割分担の協議をした。それぞれの分担で二十九日に浦添交流会が日向市駅到着時の花束贈呈、餅つき準備、記念碑のお祓い準備、祝賀会の名札準備、弁当一二〇個の発注、記念タオルの準備、除幕式の幕の準備を協議したが、再度、十月二十三に第十六回目の最後の役員会を開き式典等の準備を確認した。

二十九日は浦添交流会の方が到着するので日向市駅で當山会長に花束を送呈して歓迎をし、すぐに両交流会の三役会議を開いて、明日の記念碑除幕式等の行事を打ち合わせした。

● 学童集団疎開記念碑の除幕式開催

十月三十日は待ちに待った「学童集団疎開記念之碑」の除幕式典である。十時に日向市役所の広場で両行政の建立した記念碑の前で開会し山本孫春日日向市長、儀間光男浦添市長、甲斐千徳日向交流会会長、當山全弘浦添交流会会長の挨拶があった。

その後、十三時から塩見小学校の記念碑前で、両交流会による除幕式を行い、続いて十五時から平岩小学校の記念碑の前に移動し除幕式を行った。三ヶ所の記念碑除幕式には、日向市の会員も多数参加して盛大に式典が行われた。

● 祝賀会

夜は祝賀会が両行政、両交流会主催で開催し、浦添交流会から沖縄の舞踊も披露され、日向からも出し物が沢山あり盛大な祝賀会だった。



山本孫春市長のあいさつ



甲斐千徳会長のあいさつ



當山全弘会長のあいさつ

浦添市学童集団疎開記念碑建立事業

除幕式

開式進行 黒木総務課長

記念碑除幕式 日向市長、浦添市長、日向市議会議長、浦添市議会議長、地元選出県議、交流会会長(日向市、浦添市)

主催者あいさつ 日向市長山本孫春様
浦添市長儀間光男様

来賓祝辞 日向市議会議長黒木敏雄様
浦添市議会議長与屋雄雄様
地元選出県議黒木賢市様
日向・浦添交流会会長甲斐千徳様
浦添・日向交流会会長當山全弘様

来賓並びに主催者紹介 浦添市議会議長、日向市議会議長、日向市議会副議長、日向市議会議員(7名)、地元選出県議、浦添・日向交流会会長、日向・浦添交流会会長、浦添市長、浦添市教育長、浦添企画部長、日向市長、日向市収入役、日向市教育長

閉式

(式典終了後) 記念撮影
主催者及び来賓
浦添市の交流会全員
日向市の交流会(役員のみ)
2001年(平成13年)10月30日
日向市役所広場

つた。
 今後は、両市の交流がますます発展することを期待して散会となった。
 以上が浦添国民学校からの「学童集団疎開の歴史」と、「学童集団疎開記念の碑」建立の経過である。

3. 平岩小学校の学童集団疎開記念の碑の除幕式 会次第

2001年(平13)10.30 15.00時
於 平岩小学校

進行	日向交流会事務局長	甲斐誠二
① 開会のことば	日向交流会副会長	松葉政子様
② 記念碑除幕	沖縄県浦添・日向交流会役員 浦添日向交流実行委員会役員 収入役・平岩小学校長・小PTA会長 岩臨中学校長・児童代表・生徒代表	
③ 主催者あいさつ	沖縄県浦添・日向交流会副会長	黒木優様
④ 来賓あいさつ	浦添日向交流実行委員会重事	当間栄安様
⑤ 来賓並びに主催者紹介	収入役 浦添市長 沖縄県浦添・日向交流会顧問	黒木國衛様 儀間光男様 甲斐敏彦様
⑥ 祝いもち渡し	日向市役所 浦添市役所	
⑦ 閉会のことば	浦添日向交流実行委員会副会長	石川晴祥様
⑧ 記念撮影	来賓 沖縄県浦添・日向交流会役員 浦添日向交流実行委員会全員	

閉会のあと日向と浦添の同窓生は記念写真撮影どうぞ

2. 塩見小学校の学童集団疎開記念の碑除幕式 会次第

2001年(平13)10.30 13.00時
於 塩見小学校

進行	日向交流会事務局長	平山直雄
① 開会のことば	日向交流会副会長	小林道子様
② 記念碑除幕	浦添日向交流実行委員会役員(浦添市) 市長・塩見小学校長・小PTA会長 日向中学校長・児童代表・生徒代表 沖縄県浦添・日向交流会2役(日向市)	
③ 主催者あいさつ	沖縄県浦添・日向交流会副会長	黒木重義様
④ 来賓あいさつ	浦添日向交流実行委員会事務局長	新城啓重様
⑤ 来賓並びに主催者紹介	日向市長(日向交流会顧問) 浦添市教育長 塩見小学校校長	山本孫春様 大盛水憲様 黒木香子様
⑥ 祝いもち渡し	日向市役所 浦添市役所	
⑦ 閉会のことば	浦添日向交流実行委員会役員 浦添・日向交流会役員	
⑧ 記念撮影	浦添日向交流実行委員会会長	当山全弘様
⑨ 記念撮影	来賓 沖縄県浦添・日向交流会役員 浦添日向交流会 全員	

閉会のあと日向と浦添の同窓生は記念写真撮影をどうぞ

4号議案 学童集団疎開記念碑建立寄付金特別会計決算書

1. 収入の部 2001年(第3.4.24)～2002年(第14).3.4

区 分	決 算 額	備 考
日向会員寄付金	2,573,000円	会員寄付 485名 家族会員寄付 12名
浦添会員寄付金	420,000	特別会員寄付 39名 計 536名
祝賀会贈金	22,370	浦添会員の寄付金 祝賀会費は個人負担 記念碑除幕式・祝賀会決算現期
合 計	3,015,370	

2. 支出の部

区 分	決 算 額	備 考
記念碑原石	400,000円	原石は浦添会員が購入 原石 2基×200,000=400,000円
記念碑建立工事費	1,800,000	2基分×900,000円=1,800,000円
案内状諸経費	71,619	
餅米代	56,000	8基
お初穂代	20,000	五十嵐神社 平岩神社
神酒・お供物	2,902	
しおり用紙・原紙	3,228	
お土産用お茶	28,560	浦添会員 32名分
浦添会員弁当	16,000	浦添会員 32名分
除幕式用具リース代	97,900	
祝賀会費浦添会員分	128,000	浦添会員 32名分
特別協力者へタオル	28,350	100名分
民謡・ひょうとこ代	20,000	
レンタカー代	27,400	浦添会員送迎用
壇前幕布代	4,116	
しおり用コピー用紙	6,710	
電話料	17,623	1997年(H9).8.29日向交流会結成以降
合 計	2,668,308	

差し引き残高
収入額 3,015,370円 支出額 2,668,308円=347,062円
残金は、これからの友好都市締結に向けての活動に使わせていただきます。

会計監査報告
記念碑建立寄付金特別会計収支決算を審査したところ、簿簿、通帳、領収書とも適正であったことを認めます。監事 黒木 啓 監事 佐藤 重典

4. 祝賀会 会次第

2001年(H13).10.30 17.00時
於 ベルフォート日向

- 進行 沖縄県浦添・日向交流会副会長 児玉賢
- ① 開会のことば 沖縄県浦添・日向交流会副会長 松木龍徳
 - ② 主催者あいさつ 日向市長 山本孫春様
浦添市長 儀間光男様
 - ③ 記念碑建立経過 沖縄県浦添・日向交流会事務局長 甲斐誠二様
 - ④ 来賓祝辞 日向市議会議長 黒木敏雄様
浦添市議会議長 与座澄雄様
 - ⑤ 祝宴
乾杯 沖縄県浦添・日向交流会 会長 甲斐千徳様
- アトラクション
- (1) 塩見
 - (2) 浦添
 - (3) 平岩
 - (4) 塩見
 - (5) 浦添
 - (6) 平岩
 - (7) 塩見
 - (8) 浦添
 - (9) 平岩
 - (10) 日向市役所音楽クラブ
- ⑥ 万歳三唱 浦添日向交流子貢委員会 会長 当山全弘様
 - ⑦ 閉会のことば 沖縄県浦添・日向交流会 副会長 児玉利樹様

日向市役所、塩見小学校、平岩小学校の学童集団疎開記念之碑除幕式典の写真



儀間光男浦添市長あいさつ



日向市役所広場にて記念碑の除幕式典



日向市役所広場の除幕式典後に記念碑の前の疎開生の皆さん



塩見小学校の記念碑除幕式典



記念碑除幕式



塩見小学校の式典に生徒も参加



平岩小学校の記念碑除幕式典



疎開生と平岩の同窓生



除幕式典には、平岩小学校の生徒も参加



記念碑表記作業



記念碑基礎工事



基礎工事完了



初等科一年生

疎開当時の双方の同級生



記念碑建込作業



初等科三年生



初等科四年生



初等科五年生



初等科六年生



高等科一年生



高等科二年生



富高第一、第二、平岩国民学校生



浦添国民学校生



石川晴祥さん家族と会長、事務局長